医薬品

1．評価対象企業（20 社）

エムスリー（新規）（注 1）、**協和キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、大日本住友製薬、 塩野義製薬、 日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、ツムラ、テルモ、ＪＣＲファーマ、第一三共、大塚ホールディングス、サワイグループホールディングス**（注 3）、**シスメックス、オリンパス**（新規）（注 2）、**朝日インテック**

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注 1）エムスリーは、通信・インターネット専門部会から当専門部会に移管された。
（注 2）オリンパスは、電気・精密機器専門部会から当専門部会に移管された。
（注 3）沢井製薬が完全子会社化され、持株会社体制に移行した（2021 年 4 月）。

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	10
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	2	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	25
計		9	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 42 名（所属先 29 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、新規の企業を加えたほか、**コーポレート･ガバナンス関連**および**自主的情報開示**において項目の内容・配点の変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 76.6 点（昨年度 76.2 点）、総合評価点の標準偏差は 7.2 点（昨年度 6.4 点）であった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 79%（昨年度 75%）、**説明会等**が 79%（昨年度 80%）、**フェア･ディスクロージャー**が 85%（昨年度 87%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が 74%（昨年度 75%）、**自主的情報開示**が 70%（昨年度同率）となった。

③　評価項目について見ると、全 9 項目のうち次の 3 項目において平均得点率が 80%以上となり（昨年度は 2 項目）、高水準となった。

(a) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 85%〔昨年度 87%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：90%台 3社・80%台16社・70%台1社）

(b) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率81%〔昨年度78%〕）（得点率：90%台2社・80%台10社・70%台7社・60%台1社）

(c) 「IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 79%〕）（得点率：80%台 11社・70%台9社）

④ 一方、次の3項目（**コーポレート･ガバナンス関連**のうちの1項目および**自主的情報開示**の2項目）は、総合評価平均点（76.6%）を下回った。

(a)「財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率68%〔昨年度69%〕）（得点率：40%台1社・50%台3社・60%台5社・70%台9社・80%台2社）

(b) 「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」（平均得点率70%〔昨年度73%〕）（得点率：30%台1社・40%台1社・60%台6社・70%台9社・80%台3社）

(c) 「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか」（平均得点率73%〔昨年度70%〕）（得点率：30%台1社・50%台3社・60%台2社・70%台6社・80%台8社）

(2) 上位３企業の評価概要

第1位　アステラス製薬（ディスクロージャー優良企業〔6回目〕、総合評価点84.8点〔昨年度比＋6.2点〕、昨年度第8位）

① 同社は、**コーポレート･ガバナンス関連**が第1位（得点率〈以下省略〉87%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第1位（90%）、**自主的情報開示**が第3位（79%）、**説明会等**が同得点第3位（86%）、**経営陣のIR姿勢等**が第4位（86%）となった。昨年度と比べると、**フェア･ディスクロージャー**を除く4分野において得点率が上がった。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていること」が最も高く評価された。なお、「経営陣がIR活動に注力し、例えば、IR対応組織を整備していること（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策、ビジネスモデルやリスクを説明していること、また、経営陣がIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は第6位であったが、得点率は昨年度を大きく（12 ポイント）上回った。これに関連して、経営トップが各種ミーティングを通じて積極的に情報発信や対話を行うなど、従前に比べて経営陣のIR姿勢が改善したとの声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答も含む）が十分であること」および「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が共に高い評価となった。これらに関連して、中期経営計画（「経営計画2021」）に関する開示資料に投資家ニーズを取り入れていると評価する声が寄せられ、また、説明会での質疑応答の充実を評価する声もあった。なお、減損に関する情報開示や、開発パイプラインにおける早期段階品（プライマリーフォーカス）の情報開示の充実を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**（1項目）は、同得点第1位となった。これに関連して、公平な情報開示がなされていると評価する声が寄せられた。

⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」も高い評価となった。これらに関連して、中期経営計画の資料や説明会の内容は質が高く、そ

の取組みも評価できるとの声が寄せられた。なお、ガバナンスに関する説明会の開催や社外取締役と投資家の対話の機会を望む声があった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それが有益であること」が高い評価となった。「財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」は第5位であったが、昨年に比べ順位、得点率共に上げた。これらに関連して、研究開発に関するミーティングの定期的開催や R&D 説明会を評価する声が寄せられた。なお、R&D 説明会について、十分な質疑応答時間の確保、個々の開発プロジェクトの理解が進む内容、フォーカスエリア関連の毎年のアップデートを期待する声があった。また、ESG やサステナビリティをテーマとした IR イベントの開催を望む声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位　中外製薬（総合評価点 84.4 点〔昨年度比－0.1 点〕、昨年度第2位）

①　同社は、**自主的情報開示**が第1位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**（87%）、**説明会等**（86%）が第2位、**フェア･ディスクロージャー**が第4位（89%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が同得点第11位（73%）となった。昨年度と比べると、**コーポレート･ガバナンス関連**の得点率の低下が大きかった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、全2項目共に高く評価された。これらに関連して、経営トップの四半期決算説明会への参加や、CFO による投資家との対話など、経営陣の IR に対する姿勢を評価する声が寄せられた。また、IR 部門のレベルは高く、常に工夫をしてトップクラスの情報開示を維持しているとの声も寄せられた。

③　**説明会等**においては、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が最も高い評価となった。また、「説明会における会社側の説明（質疑応答も含む）が十分であること」も高く評価された。これらに関連して、新製品発表時のミーティング開催、大きな学会後のフォローアップの機会の提供、説明会での質疑応答の充実、ロイヤルティ収入の開示などを評価する声が寄せられた一方、中期経営計画（新成長戦略「TOP I 2030」）について、他社と比べて定量的な説明が不十分であるとの指摘もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**（1項目）は第4位となったが、得点率は第1位と僅差であった。これに関連して、公平な情報開示がなされているとの声が寄せられた。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が平均得点率を下回り、昨年度と比べて、順位、得点率共に大きく下がった。これに関連して、3年間の中期経営計画の廃止などで中期的なマイルストーンがわかりにくいとの声や、新成長戦略の内容について、定性的で評価することが困難、定量的な KPI も盛り込むべきとの声があった。また、ESG に関する情報について社外取締役との対話を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それが有益であること」が高く評価され、同得点第1位になった。また、「財務情報と非財務情報（ESG 情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」も評価された。これらに関連して、ESG 説明会、製品説明会、デジタル戦略説明会等を評価する声が寄せられた。なお、新薬説明会などの開催を評価しつつ、投資家が注目している開発品（テーマ）という観点では不十分との声もあった。

第3位　塩野義製薬（総合評価点 83.9 点〔昨年度比－1.2 点〕、昨年度第1位）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（89%）、**説明会等**（87%）が第1位、**コーポレート･ガバナンス関連**が第2位（86%）、**自主的情報開示**が第9位（74%）、**フェア･ディスクロージャー**が第14位（84%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が IR 活動に注力し、例えば、IR 対応組織を整備していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策、ビジネスモデルやリスクを説明していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が最も高い評価となった。「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていること」は同得点第5位となった。これに関連して、IR 活動の質・量とも優れ、特に経営陣の IR 姿勢は積極的であること、情報の根拠

等を明確に示していることなどを評価する声が寄せられた一方、コロナ対応の説明に積極的であるが、それ以外のパイプラインのアップデートを求める声があった。

③　**説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答も含む）は十分であること」が最も高い評価となり、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」も高い評価となった。これらに関連して、十分な情報開示がなされ説明会での質疑応答も充実しているとの声が寄せられた。なお、HIV フランチャイズについて市場での動向や業界内でのポジショニングなどの説明を適宜してほしいとの要望があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**（1 項目）は平均得点率に達せず、第 14 位となった。これに関連して、コロナワクチンや治療薬への取組みが正確に伝わっていないとの声があった。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が同得点第 1 位となった。「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」も評価された。これらに関連して、昨年公表された中期経営計画「STS2030」の今後のアップデートに期待する声、ESG 説明会の開催を望む声があった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それが有益であること」が平均得点率を下回り、第 14 位（第 1 位と 18 ポイント差）となった。「財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、R&D 説明会が評価期間内に開催されなかったとの声があった。なお、平安グループ関係の説明会を評価する声、ESG やサステナビリティをテーマとした IR イベントの開催を望む声もあった。

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

○　**大日本住友製薬（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 83.0 点〔昨年度比＋6.5 点、一昨年度比＋5.4 点〕、第 4 位〔昨年度第 12 位、一昨年度第 7 位〕）**

①　同社は、**説明会等**が同得点第 3 位（86%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 4 位（81%）、**自主的情報開示**が同得点第 4 位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（85%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 9 位（86%）となった。**フェア･ディスクロージャー**を除く 4 分野の得点率が昨年度より改善した結果、総合評価点の上昇（上昇幅は第 2 位）および順位の上昇（上昇幅は第 1 位）につながった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が IR 活動に注力し、例えば、IR 対応組織を整備していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策、ビジネスモデルやリスクを説明していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が第 5 位であったが、昨年度に比べ得点率は大幅（14 ポイント）に上がった。これに関連して、経営陣が積極的な IR 姿勢を継続していることを評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、全 2 項目共に高い評価となり、この分野において同得点第 3 位（第 1 位と僅差）となった。これらに関連して、説明会での資料や質疑応答が充実している、地域別利益開示がわかりやすいなどの声が寄せられた。

④　**コーポレート･ガバナンス関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が同得点第 1 位となった。なお、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」は第 6 位となったが、昨年度に比べ得点率が上昇した。なお、資本政策や株主還元策に関して説明が不十分との声があった。また、社外取締役との対話の機会や、親会社のグループ戦略に占める自社の位置付けを整理・解説する情報発信を望む声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以　　上

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（医薬品）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点 15点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 25点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4503 アステラス製薬	84.8	25.9	4	17.1	3	9.0	1	13.0	1	19.8	3	8
2	4519 中外製薬	84.4	26.2	2	17.2	2	8.9	4	11.0	11	21.1	1	2
3	4507 塩野義製薬	83.9	26.6	1	17.4	1	8.4	14	12.9	2	18.6	9	1
4	4506 大日本住友製薬	83.0	25.4	6	17.1	3	8.6	9	12.2	4	19.7	4	12
5	4523 エーザイ	82.6	25.8	5	15.9	9	8.5	12	11.8	6	20.6	2	5
6	4568 第一三共	82.3	25.2	7	16.3	6	8.7	7	12.4	3	19.7	4	4
7	6869 シスメックス	81.2	25.0	8	16.4	5	9.0	1	11.5	8	19.3	7	3
8	4543 テルモ	79.2	24.6	10	16.1	7	9.0	1	11.1	10	18.4	10	7
9	7733 オリンパス	78.7	24.8	9	15.3	14	8.8	5	11.7	7	18.1	11	
10	7747 朝日インテック	78.6	26.0	3	16.1	7	8.6	9	10.9	14	17.0	14	6
11	4536 参天製薬	78.0	23.4	13	15.2	16	8.5	12	11.9	5	19.0	8	11
12	4151 協和キリン	77.7	23.6	11	15.9	9	8.8	5	11.4	9	18.0	12	17
13	4502 武田薬品工業	77.6	23.5	12	15.7	12	8.3	15	10.4	16	19.7	4	10
14	4578 大塚ホールディングス	75.5	22.6	15	15.4	13	8.7	7	11.0	11	17.8	13	14
15	4528 小野薬品工業	72.7	22.7	14	15.9	9	8.6	9	8.9	19	16.6	15	15
16	4552 JCRファーマ	69.3	20.5	18	15.3	14	8.0	19	10.3	18	15.2	16	9
17	4540 ツムラ	69.1	21.1	17	14.3	18	8.3	15	11.0	11	14.4	17	16
18	4887 サワイグループホールディングス	68.7	22.5	16	14.2	19	8.3	15	10.4	16	13.3	19	13
19	4516 日本新薬	67.2	20.0	20	14.7	17	8.1	18	10.5	15	13.9	18	18
20	2413 エムスリー	57.2	20.4	19	13.0	20	7.6	20	6.6	20	9.6	20	
	評価対象企業評価平均点	76.62	23.80		15.73		8.54		11.05		17.50		

2021年度評価項目および配点（医薬品）

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。	**20**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。	**10**
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	**10**
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	**10**
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
3．フェア・ディスクロージャー（10点）	**配点**
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	**10**
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示（15点）	**配点**
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	**5**
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示	
・中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	**10**
【コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（25点）	**配点**
①注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。　［過去1年間を目安に評価］	**10**
②財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか。	**15**
【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	

医薬品専門部会委員

部　会　長	田中　　洋	みずほ証券
部会長代理	山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
	稲垣　善之	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	酒井　文義	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
	兵庫　真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
	水野　　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	若尾　正示	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

評価実施アナリスト（42 名）

赤羽　高	東海東京調査ｾﾝﾀｰ	田中　洋	みずほ証券
有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券	谷林　正行	QUICK
池野　智彦	ｴｰｽ経済研究所	都築　伸弥	みずほ証券
稲垣　善之	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	勅使河原　充	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
今井　恵介	第一生命保険	鳥居　彩	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
奥下　諒	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	中名生　正弘	ｼﾞｪﾌﾘｰｽﾞ証券会社　東京支店
桂　竜輔	SMBC 日興証券	兵庫　真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
鎌田　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	藤原　重良	ＳＯＭＰＯｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
久保田　悟	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	古山　和希	みずほ証券
久保山　浩之	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	真下　弘司	QUICK
熊谷　直美	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小池　幸弘	UBS 証券	水野　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高口　伸一	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	牟田　知倫	ＳＯＭＰＯｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小林　守伸	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	村岡　真一郎	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
酒井　文義	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券	森　貴宏	みずほ証券
坂野　剛史	第一生命保険	八並　純子	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐藤　円香	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
澤田　信明	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山崎　みえ	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
芝野　正紘	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	吉田　正夫	いちよし経済研究所
高橋　豊	極東証券経済研究所	葭原　友子	大和証券
武井　智史	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	若尾　正示	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。